

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Longitudinal study of the relationship between number of prior miscarriages or stillbirths and changes in quality of life of pregnant women: the Japan Environment and Children's Study (JECS)

和文タイトル:

流死産既往歴の回数と次の妊娠中におけるQOLの変化との関連:エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 富山ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: BMC Pregnancy and Childbirth

年: 2023 DOI: 10.1186/s12884-023-05578-6

筆頭著者名: 二川 香里

所属 UC 名: 富山ユニットセンター

目的:

本研究では、流死産既往歴の回数と次の妊娠の初期から中・後期にかけての QOL の推移との関連を明らかにすることを目的とした。

方法:

エコチル調査に参加した 82,013 名の妊婦を対象とした。妊娠初期と中・後期の QOL は 8 つの質問項目からなる「健康関連 QOL Short Form-8 日本語版(SF-8)」を用いて評価し、身体的な QOL と精神的な QOL について得点を算出した。妊婦を流死産既往歴の回数により 4 群(0,1,2,3 回以上)に分類した。0 回群と各群間で妊娠初期の身体的 QOL・精神的 QOL、妊娠経過に伴う身体的 QOL・精神的 QOL の推移を比較した。分析は、一般化線形混合モデルを用いた。

結果:

0 回群に比較して、1 回群 ($\beta = -0.29$, 95%信頼区間 [CI] -0.42 ; -0.15)、2 回群 ($\beta = -0.45$, 95% CI -0.73 ; -0.18)、3 回以上群 ($\beta = -0.87$, 95% CI -1.39 ; -0.35) は妊娠初期の身体的 QOL が有意に低かった。1 回群および 3 回以上群は、0 回群と比較して妊娠初期から中・後期にかけて身体的 QOL が有意に上昇する傾向を示した (それぞれ $\beta = 0.22$, 95% CI 0.07 ; 0.37 および $\beta = 0.75$, 95% CI 0.18 ; 1.33)。

考察(研究の限界を含める):

流死産既往歴がある妊婦は、妊娠初期には流産に対する不安や恐怖が強くなることから、身体的活動を制限する傾向にある。そのため妊娠初期の身体的 QOL が低かったと考えられる。また妊娠中の身体的 QOL の推移に関しては、流死産既往歴が無い妊婦と比較して流死産既往歴がある妊婦では、妊娠経過に伴って有意に上昇していた。これは、妊娠初期に比較して流死産の可能性が低くなった中・後期に身体的活動を増やすことが影響していると考えられる。研究の限界として、妊婦の QOL に関連する他の要因が共変量として含まれていない可能性がある。また、妊娠中・後期の調査時期が平均妊娠 27 週であり、厳密に妊娠後期が定義されたとは言えない。

結論:

流死産既往歴が多いほど、次の妊娠初期の身体的 QOL は低かった。しかし妊娠中の身体的 QOL の推移という点では、流死産既往歴がある妊婦は、既往歴が無い妊婦と比較して、妊娠初期から妊娠中・後期にかけてのスコア上昇が大きかった。